

健康を守るために必要なこと —原発事故後 5 年、甲状腺検査から考える

話題提供: 奥村晶子 (高木学校 医療被ばく問題研究グループ)

2015 年 8 月、福島県県民健康調査検討委員会では「福島県の子どもたち 137 人に甲状腺がんまたはその疑いあり」という最新の状況を公表しました。福島県は「甲状腺がんの罹患統計から推定される有病数に比べて数十倍のオーダーで多い」として多発を認めています。しかしその理由を「スクリーニングの結果による過剰診断」だとして、「放射線による影響は考えにくい」という姿勢は変えません。健康調査において、検査対象年齢、対象地域を広げることや甲状腺がん以外の検査が望まれる一方、福島県では甲状腺検査受診率が低下しています。

原発事故で被害にあった人々への放射線対策や医療支援に、健康調査は生かされているのでしょうか。当事者が声をあげ、政府の健康対策を動かしていく、その実現のために私たちは何をすべきでしょうか。健康を守るために必要なことについて、一緒に考えていきましょう。

「カフェ」でめざすこと: 「カフェ」では自由に「話す⇔聞く」ことができます。かつてカフェは市民が、平等な立場で、議論をすることによって、世論をつくり出してゆく場所という役割を果たしていました。わたしたちも、参加者が立場や肩書を超えて遠慮なく話せる場所、深く対話できる場所を提供したいと思います。(進行: 山田)

☆医問研とは: 医療被ばく問題研究グループの略称です。

医療被ばく問題研究グループは、医学・生物学の知見を学びながら、被ばく線量の記録手帳や医療被ばく問題を解説した冊子の頒布、出前講座などを行う一方、市民の声を聞き、学会、業界、行政に働きかけます。

2015 年 12 月 19 日(土)

◆場所

新宿区環境学習情報センター(2階)

10:00~12:30 (予定)

[資料代] 100円

[申込み] 不要 / 直接会場へお越しください

◆交通のご案内: ★新宿駅西口 徒歩 15 分

★バス新宿駅西口ターミナル 17 番乗り場

■京王バス 宿 32・宿 33「十二社(じゅうにそ)池の下」下車 徒歩 1 分

★大江戸線「都庁前」駅 A5 番より徒歩 5 分

★丸の内線「西新宿」駅 2 番より徒歩 10 分

◆住所: 東京都新宿区西新宿 2-11-4 新宿中央公園 エコギャラリー新宿内

◆お問い合わせ: takasas@ja.main.jp (高木学校事務局) ©出前講座のご希望があれば承ります。



主催 高木学校 (企画: カフェ企画会)